



栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校

令和2年度8月号

令和2年7月31日

振り返る

～自らのキャリアに活かす～

校長 今泉 正之

今年の梅雨は例年に比べて長く、厚く雲のたれこめた日が多くなっています。6月に1学期をスタートさせた頃よりも、感染拡大が広がっている中ですが、なんとか例年より11日遅い終業式を迎えられることとなりました。御協力ありがとうございました。

7月23日(木)からスタートした4連休で、いくつかの運動部では交流試合という形ではありましたが、対外試合を実施し中学校3年間の活動を終えることができました。残りの部活動は8月の始めに実施することとなっています。また、吹奏楽部の生徒は昨日、部活動保護者の方をお迎えして、換気等に配慮しながら体育館で発表会を行いました。これも活動に区切りをつけることができたと思います。こちらにつきましても、御理解と御協力をいただきありがとうございました。

さて、今日で第1学期が終了します。コロナウイルス対応で通常の授業形態が実施できなかつたり、活動の制約が多かつたりという中の2か月間でした。明日から例年より大幅に短縮となりましたが夏季休業が始まります。第2学期開始直後に定期テストを実施することもあり、生徒はなかなか楽しめる夏休みとはならないかもしれませんが、大幅に宿題も少ないと思いますので、3月からの臨時休業中も含めて第1学期の振り返りをして欲しいと思っています。

今年から各学年で「キャリアパスポート」に取り組んでいます。この「キャリアパスポート」は小学校から高等学校までのキャリア教育に関する活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができる教材として作成されたものです。この場合のキャリアとは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね」(平成23年中央教育審議会の答申)のことです。ですから、キャリアは単に職業を指しているのではなく、中学生で考えると、保護者から見れば子供、中学校では生徒であり、友達と遊ぶ余暇人、成長すれば労働者、家庭人、地域の中の一員のように生涯の中で変化し、積み重ねられ、つながっていくものです。そしてその時々で役割を果たし活動することを通して、他者や社会に関わっています。その関わり方が「生き方」であり、キャリアととらえ「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を『キャリア発達』といいます(前掲答申)。その過程を記録し、蓄積していくことで生き方や進路を真剣に考える「キャリア教育」のために作られたツールが「キャリアパスポート」です。ここで大切なのは「これまで」を「これから」に活かすことで、そのために「振り返り」と「見通し」の繰り返しが必要になります。

「振り返り」は日々、学期、学年など常に行われます。あまりにも例年と違いすぎた今学期を振り返り、特に3年生には区切りをつけて、これからの「見通し」をたてて欲しいと思います。

(本日配布の校長室だより裏面が「キャリアパスポート」のはじめの掲載文です。あわせてお読みいただければ幸いです。)